

- ①冷房時設定温度を28℃以上に設定する企業が多くなっております。
しかしながら、28℃とはあまり快適に仕事ができる温度ではありませんし、温度の上下を感知するセンサーの位置により、オフィス内でも快適な場所もあり、そうでない場所も出てきます。
センサーの位置を考慮して、扇風機などで空気対流を行いますと、扇風機程度の消費電力で全体の省エネにつながります。
- ②フィルターを清掃することにより、フィルターを通過する空気がスムーズに流れます。
汚れていますと、冷やされた空気の量が減り、なかなか設定の温度に達しないため室外機がフル稼働し、大量の電力を消費することになります。一般にフィルター目詰まりにより、1割～3割程度電力量＝(電気代)が増えます。
- ③空調機(エアコン含む)において空気を冷やす、温める部分をフィンコイル或いは蒸発器(冷房の場合の総称)と呼びその部分にフィルターで回収出来なかった汚れが付着して冷暖房能力を低下させます。その事により機械自体が常時フル運転の状態になり、結果電気代、電力量が増えてしまいます。定期的に薬品による洗浄が、節電、機器延命に効果的です。この場合の薬品は通常アルカリ性の薬品がベストです。
*大型の空調機(エアコンでなくエアハンドリングユニット)では、フィンコイルに冷水、温水が流れて冷暖効果を発揮する為に、チューブ内の洗浄をする事もあります。
この場合はアルカリ性でなく酸性の薬品を使います。
- ④冷暖房機器を入れ替える事で、インシヤルコストはかかりますが、ランニングコスト(電気代、修理代)が減ります。震災後、節電意識が高まり機器を更新する一般家庭、企業が増えております。(超省エネタイプに)

